

<b>Title</b>	アメリカ合衆国の領土意識形成：ルイス・クラーク探検隊領土意識の形成を促した西部探検
<b>Author(s)</b>	村上, 公久
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢, 第 26 巻第 1 号, 2013.10 : 109-134
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4579">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4579</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〈原著論文〉

## アメリカ合衆国の領土意識形成

——ルイス・クラーク探検隊 領土意識の形成を促した西部探検——

村上 公久

### 抄 録

---

ルイス・クラーク探検隊(1804-1806)は、米国において太平洋岸への最初の大陸横断を成し遂げ、現地踏査によって西部域についての多くの情報を得、独立間もない国家の北米大陸西部域についての認識と領土意識の形成に貢献した。第三代大統領トーマス・ジェファソンから任命された二人のヴァージニア州出身の軍人メリウエザー・ルイスとウィリアム・クラークが率いた探検隊は、この地域の植物、動物、地質、および地理の実地調査と、交易と通商のための内陸水路を探る任務を帯びていた。ジェファソンの目標はアジアとの商取引の目的のため太平洋岸に至る水運のルートを見つけることだった。ジェファソンはミズーリ川とその流域に沿ってアメリカ先住民の各部族に米国の主権を宣言し、ルイジアナ購入によって版図に入れられた地域の正確な情報を得ることを重要課題としていた。本試論は、アメリカ合衆国においては広く知られているがわが国では未だほとんど知られていないこの探検隊について、特にアメリカ合衆国を導いてヨーロッパ国家の一植民地から今日の超大国になる道を拓いたトーマス・ジェファソンの関与について観、ジェファソンの領土画定の試みをルイス・クラーク探検隊の派遣を通して探る。

---

キーワード； ルイス・クラーク探検隊， トーマス・ジェファソン， ルイジアナ購入， 大陸横断踏査

### はじめに

アメリカ合衆国第三代大統領トーマス・ジェファソンは1807年の年頭教書\*（発1806年12月）に、その使命を遂行し終えた一つの探検隊の業績を特別に取り上げ、「ルイス氏とクラーク氏が指揮したミズーリ川を遡上し太平洋に至る最良のルートを探る探検は、所期の目的を完遂した。ミズーリ川の源流に至りコロンビア川を太平洋河口まで下り、わが国の大陸を横断するルートの地理につ

---

\*ジェファソンは大統領として自ら一般教書演説を行う慣習を止め、文書で議会に演説原稿を配った（一般教書演説は後にウッドロウ・ウィルソンが復活させた）。

いて詳細に踏査し、各流域の特徴、通商の可能性と先住民について明らかにした。ルイス氏とクラーク氏および全隊員は困難な任務を達成した。彼らの壮挙は、国民の賞賛に値する」と絶賛している。連邦議会の決議によって派遣されたこの国軍の探検隊、「発見隊」Corps of Discovery と称されるルイス・クラーク探検隊は、アメリカ合衆国の領土の把握を西部域に拡張し、大陸横断内陸水路についての詳細な地理情報を得て、建国間もない国家の領土の認識を確立する基礎的な事業を成し遂げたという点において、アメリカ史に画期を記し今日の大国の礎を築く壮挙となった。

### ルイス・クラーク探検隊派遣の背景

かつて大航海時代のイスパニア帝国の銀貨にはプラス・ウルトラ plus ultra 「さらに、その向こうに」の文字が刻まれていた。新世界発見の挑戦を続けていたその時代のアメリカ大陸に関わって抜きん出た英雄は、言うまでもなくクリストファー・コロンブスである。本試論のテーマである、ジェファソンが計画立案し派遣したルイス・クラーク探検隊は実際に北米大陸を西海岸に至るまで現地踏査によって認識した「陸のコロンブス」と例えることができる。このルイス・クラーク探検隊の任務遂行と成果が今日のアメリカ合衆国の繁栄をもたらし、大英帝国の植民地の一つに過ぎなかった新大陸のコロニーが世界の超大国となる道程への第一歩を印した。

当時のアメリカ市民は、大西洋を超えて対岸のヨーロッパにある宗主国を相手に独立戦争を戦い、勝ち得た後もなお自分たちの出所ヨーロッパに顔を向け続けていた。新興のアメリカ合衆国の市民は、東を向き続け大西洋岸にしがみついて生きていた。この独立間もない新しい国家の市民は、指導階級にある者も一般庶民も、これから国を築いてゆく自分たちの国がそこから遙か西に広がる「大陸」であることに気づいてはいなかった。その中であって、ひとりジェファソンのみが「大陸」を明確に意識していた。彼は大陸を国土とすることを決意していたのである。

今なお若いこの国が今よりもっと若かった今から二世紀前、ルイス・クラーク探検隊が派遣された頃の誕生して間もない当時のアメリカ合衆国を顧みれば、そこには今日の広大な領土を有する大国のイメージはない。当時のその新興国市民の居住地域および実態としての政治経済域は、我々が知る現在の広大な国土から成る同国のイメージとは全く異なって、大西洋に面した東海岸沿いの縦長の狭い帯状の部分に限られていた。当時は、国民の三人に二人は大西洋岸から80 km 以内の地帯で暮らしていた。アメリカ合衆国は、アパラチア山脈の東側にあって南北に伸長する狭い帯状の国家にすぎなかった。その中に13州が詰まっていた。内陸に向かって目を転ずれば、アパラチア山脈から西は先住民が点在していた地を除けば文字通りの無人の荒野が広がっていたのであって、この国の版図の西端はミシシッピ川左岸で終わっていたのである。当時の人々の西部についての知識は極めて貧弱なものであって、マンモスが徘徊しているといった出所不明の伝聞や、碧い眼をした

インディアンが住んでいる（ジョージ・カトリン\*\*は探検隊が多くの記録を残している先住民インディアン部族マンダン族が12世紀にウェールズを出発して消息を絶ったプリンス・マッドックの探検隊の末裔だと信じていた。）などといった巷説があった。

アメリカンドリームの大半は、きわめて多様で豊かなトーマス・ジェファソンのヴィジョンに始まる。独立前1769年アルバマール郡選出のヴァージニア植民地議会議員となった時から始まる政治家としての経歴に基を置いて、独立宣言書の起草、アメリカ合衆国駐フランス全権公使としての外交公務、そして国務長官を経て第三代大統領としての重責を担うことになったジェファソンは、豊かな知恵に支えられ広い知見と深い教養を伴い、さらに大英帝国への激しい憎悪がエネルギーとなって、今日の超大国の礎を築いた。本試論のテーマであるルイス・クラーク探検隊もトーマス・ジェファソンの国家形成への構想実現の方途の一部である。ジェファソンは、大陸の西の涯に広がる大洋への到達とその太平洋に航路を求めての通商の展開を意欲し、大英帝国東インド会社によるアジアの利権独占を打ち破ってアメリカ合衆国がアジア・太平洋の権益を奪取することを画策していた。ルイス・クラーク探検隊の派遣は、大陸国家の形成とアジア・太平洋域の通商を意欲する彼にとってその第一歩となる踏査計画の実施だったのである。本試論は主としてこの探検隊の領土意識の形成に貢献した業績の観点から以下考察する。

### ジェファソンの探検構想と先駆の探検事例

ルイス・クラーク探検隊が派遣される以前のアメリカ大陸西部に関する情報、そしてトーマス・ジェファソンが幼少期から西部探検構想に傾注してゆく過程は、以下のようである。

ロイヤル・カンパニー Loyal Company の創立者の一人であったトーマス・ジェファソンの父ピーター・ジェファソンは、1749年にアメリカ合衆国とカナダの東部に連なる長大なアパラチア山脈の一部（北東部）をなす支山脈であるアレゲーニー山脈を探検するための基金を創設した。（1995年に共に国有林指定となった、ヴァージニア州北西縁にあって西ヴァージニア州と南端部がケンタッキー州に接する、「ジョージ・ワシントンの森」と「トーマス・ジェファソンの森」はそのアレゲーニー山脈の東斜面にある。）他の同協会の創立者はジョシュア・フライ、トーマス・ウォーカー、ジェイムズ・モーリー（牧師）、トーマス・メリウエザーらであって、その中のトーマス・メリウエザーが、ルイス・クラーク探検隊の二人の隊長の中の一人メリウエザー・ルイスの母方の祖父である。1751年ジョシュア・フライとピーター・ジェファソンは、メリーランド全領を含むヴァージニア居住域のほぼ完全な地図を作製した。これは実地測量によって作成された最初のヴァージニア領の地図である。

1753年ジェファソンが10歳のとき、同協会はトーマス・ウォーカーによってミズーリ川上流部

の踏査探検を計画したが7年戦争（北米ではフレンチ・インディアン戦争 French and Indian War と呼ばれる）が勃発したためこの冒険的な企ての実施は見送られた。父の死によりジェファソンは1758～60年ロイヤル・カンパニーの創立者の一人ジェームズ・モーリー牧師の経営する学校に入学し、当時進行中であったアメリカ大陸西部への探検計画に関わりを持つようになる。

ジェファソンは1780年代には、1763年のパリ条約によって西部域はヴァージニアには含めないと規定されていたにもかかわらず、「ヴァージニア州覚書」にミズーリ川、他の西部域の河川、西部のいくつかの地域を含めて明記した。1783年ジェファソンはジョージ・クラークに「当方の資金の見込が付き次第、西部探検を指揮して欲しい」と要請した。ジョージ・クラークはこれを断ったが、末弟のウィリアムに「大変良い提案だ」として替わって受諾するように促しているがこのウィリアムがルイス・クラーク探検隊の二人の隊長の中の一人ウィリアム・クラークである。ジェファソンは1784年合衆国議会法令に、西部の新しい領土が国土に編入された場合は独立時の東部13州と同等の合衆国領土として扱うべきであるとの原則を、含めるように提案した。

1786年ジェファソンが駐仏全権公使在任中、アメリカ人探検家ジョン・レッドヤードが抱いていた探検計画に参画し、これを支持した。レッドヤードの計画は、シベリアを東に向かって横断し北アメリカ大陸の西海岸に船舶停泊が可能な地点に至る通路を確定して、さらに東に向かって大陸を横断し東海岸に至るといふ探検計画であった。レッドヤードは探検中にロシア国内でカムチャツカまであと約300kmの地点で逮捕されヨーロッパに送還され、所期の探検計画は頓挫した。

1792年にアメリカ人ロバート・グレイ船長は、コロンビア号による航行で太平洋に注ぐ大河の河口に到達し河川名を自らの船舶名に因んでコロンビア川と命名し一帯をアメリカ合衆国の領土であると宣言した。しかしコロンビア川一帯が公的に米領土と認められるためには後続する現地踏査による確定と外交を待たなければならなかった。

公使任務の後ジェファソンは、1793年にフランス人外交官で植物学者でもあったアンドレ・ミショーによる「合衆国（東部13州）と太平洋岸を結ぶ最短で通行の便が良いルートを発見する」探検の計画を支援する者をアメリカ哲学協会で募集した。当時同協会の会長に就任して間もないジェファソン自身とジョージ・ワシントン、ジョン・アダムス、ジェームズ・マディソン、アレクサンダー・ハミルトン、ヒュー・ノックスらがこれに応じてミショーの探検計画を支持し支援金を寄付している。ミショーの探検は政治的陰謀に阻まれミシシッピ川東岸で終わった。（1793年1月23日投函のジェファソン発ミショー宛の探検の指示書が残されている。この探検指示書がルイス・クラーク探検隊を派遣する際に役立つことになる。）

スコットランド出身のアレクサンダー・マッケンジーは、小規模な探検隊を率いてカナダのピース川沿いのフォート・フォーク（現アルバータ州）を出発して西に向かい1793年太平洋岸の現ブリティッシュ・コロンビア州とバンクーバー島との間のジョージア海峡に達した。これはルイス・クラーク探検隊に10年先行するメキシコ以北北米大陸の横断の試みである。1789年に開始された

マッケンジーの一連の探検は北米大陸の内陸水路発見への最初の試みでもあった。1802年ジェファソンはこのマッケンジーの探検記録を入手し、大英帝国が太平洋に至るルートを確立しコロンビア川流域を英領土とする恐れを抱き、自らの探検隊派遣が焦眉の急となった。

## 列強の北米大陸をめぐる動きとジェファソンの危機感

ミシシッピ川の西には当時ルイジアナと呼ばれていた広大な中部大平原が広がっていたが、ヨーロッパの列強の軍隊が侵入し、誕生間もない新国家の市民は北アメリカ大陸に国家を展開する機会を失い、大陸の東端に籠ることを強いられる危険が現実にあった。ジェファソンは実際に英の再攻勢を畏怖していた。

ジェファソンは1785年から約4年間、フランス革命の前兆が次々と現れ起こり遂に市民革命が勃発する丁度その時期に駐フランス全権公使を務めていた。前任の駐仏全権公使ベンジャミン・フランクリン（任期1778年9月14日～1785年5月17日）を継いで着任したジェファソン（任期1785年5月17日～1789年9月26日）は、シャンゼリゼ大通りに面する公使公邸で執務する中、ヨーロッパ列強が現在のアメリカ合衆国版図の北西部に探検隊を派遣するという複数の計画を知った。

当時、ミシシッピ川より西でロッキー山脈に至る地域は1643年から1715年まで君臨したフランス王ルイ14世に因んで「ルイジアナ」と呼ばれていた。ロベール・カブリエ・ド・ラ・サールが、ミシシッピ川の流れるこの領域をフランス領と宣言し「国王ルイの土地」を意味するラ・ルイジアヌ La Louisiane と命名したのが仏領名の起源である。フランス領ルイジアナはフランス植民地帝国の一部として、現在のモービル湾からカナダとの国境の北にまで延び、カナダ南西部の小部分を含んでいた。

七年戦争 French and Indian War の結果、フランスはカナダ植民地と（ニューオーリンズ付近を除く）ミシシッピ川以東の地をイギリスに割譲し、残りのニューオーリンズ市およびミシシッピ川以西も1762年のフォンテーヌブロー条約でスペインに譲渡された。

スペインを支配したナポレオンは1800年のサンイルデフォンソ条約で、ルイジアナをスペインから取り戻したが、これはその後2年間秘密にされていた。

## ルイジアナ購入 The Louisiana Purchase (*Vente de la Louisiane* “Sale of Louisiana”)

1803年にアメリカがフランスから214万km<sup>2</sup>の領土を1,500万ドル（現金1,125万ドル+当時フランスの債務375万ドルの取り消し）で購入した出来事をルイジアナ購入 Louisiana Purchase と呼ぶが、当時の「仏領ルイジアナ」は主にミシシッピ川流域の広大な領地で、現在のアイオワ、アー

カンソー、オクラホマ、カンザス、コロラド、サウスダコタ、テキサス、ニューメキシコ、ネブラスカ、ノースダコタ、ミズーリ、ミネソタ、モンタナ、ルイジアナ、ワイオミングの15州にまたがる。

1802年にジェファソンは特使ジェイムズ・モンローとロバート・リビングストンの二名をパリに派遣し、ニューオリンズ購入を提案した。ジェファソンは、当初は仏領ニューオリンズの領有のみを願っていた。ニューオリンズはミシシッピ川の河口に位置し交易の重要拠点であった。当時フランスはナポレオン・ボナパルトの執政下であり、ナポレオンはルイジアナ領を大フランス帝国を新大陸に建設する礎にする積りであった。ナポレオンの軍隊が南部に上陸してミシシッピ川沿いに北上してアメリカ合衆国を征服しカナダを奪回しようとしていた。フランス本国を出発した大規模な軍隊は、途中セント・ドミンゴ島に立ち寄って奴隷の反乱を鎮圧し、首謀者トッサン・ルヴェルテュールを処罰する予定であったが、奴隷の反乱は一時鎮圧されたが、黄熱病によって1万7千のフランス兵が死亡した。ナポレオンは新大陸侵略の野望を失い、新大陸から手を引きたいと思い始めていた。フランスはイギリスとは敵対していた。イギリスがカナダからルイジアナ領に侵攻した場合、これを防衛することはそもそも無理と結論したナポレオンは、むしろこれを売却してこれで得た利益を大陸での戦費にあて、さらにアメリカのヨーロッパ政策をフランス寄りにすることができることも期待して、全ルイジアナを破格の1,500万ドルでアメリカに売却することを決定した。これを受けて1803年4月30日、売却に関する条約が交わされた。アメリカ合衆国の領土はこれにより、この当時に2倍になった（現在でも米国全領土の23%に相当する）。

ルイジアナは1762年から1800年までスペイン領だったが、この間行政官はスペイン人であったにも関わらず新規のスペイン人入植者はほとんどなく、フランス系社会が存続した。ルイジアナ州は一世紀以上にわたってフランス系植民社会を保っていた。かつての広大な旧「仏領ルイジアナ」には現在では合衆国の15の州が含まれているが、その中の一つルイジアナ州では民法としては今なおナポレオン法典が用いられ、州民の約6割がプロテスタント系でありながら他の州では郡カウンティ county と呼ばれる州域内の行政区が同州では今なおパリッシュ parish と呼ばれている。これらの法制や郡の呼称にかつてフランス植民地であった名残が認められる。

### ルイス・クラーク探検隊の成果と影響

ジェファソンはその後探検隊の結成に着手した。彼は個人秘書を務めていた、メリウエザー・ルイス大尉を探検隊長とする草稿を議会に提出し、結果支持された。そのためジェファソンはルイスを正式に探検隊の隊長に任命し、ルイス宛に送った1803年6月20日付けの指示書では、「貴殿の任務は、ミズーリ川とその主流にかかる沿道、さらにコロンビア川、オレゴン川、コロラド川ほか太平洋との連絡水路を探索し、大陸を最も短い距離で横断、かつ通商を行う目的で通行で

きる陸路を発見すること」

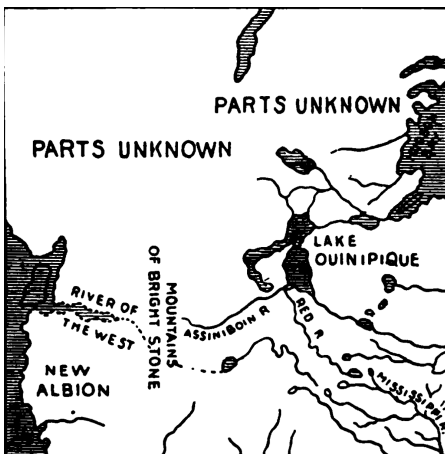
と探検隊の任務を指示した。この詳細な指示書には、「……それらの記録を損傷劣化の危険から護るべきであり、さらに安全を確保するために、重要なコピーは通常の用紙ではなく耐湿性に優れた樺の木の樹皮によって作製すべきである。」と記されており、一国の大統領が実に入念な指示を与えていることに驚かされる。

鉄道が開通するまでの輸送、特に重量のある物資輸送は水運によっていた。わが国でも、岡蒸気が走り始めて各地の河川がゴミ捨て場と化すまでは、物資輸送は河川・運河水運によるものが主であった。

ルイス・クラーク探検隊の主要任務は大陸横断内陸水路の発見であったが、二年半に亘る現地踏査の結果太平洋に達する一貫した連絡水路が無いことが判明した。探検隊はこの任務を含め未踏の現地の地理的状況の把握を成し遂げたが、その成果の結晶化した成果物が作成された140舗の地図である。(地図3)は、「アメリカ合衆国で最も有名な地図」として広く知られたルイス・クラーク探検隊の最大成果物である。

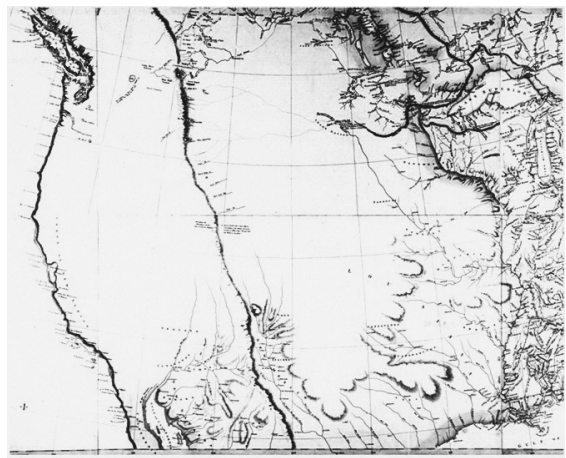
(地図1)は、独立宣言から二年後の1778年作成のジョナサン・カーバーによる北西部地域地図であるが、当時の同地域に関する地理的認識は、この程度のものであった。

(地図3)は、アメリカで最も有名な地図である。ルイス・クラーク探検隊は二年半の探検の行程で、最も重要な任務であった地理情報の収集と編纂を完遂し小さいサイズの数葉を含め約140舗の地図を作成している。その中でこの地図(地図3)は本試論が扱うルイス・クラーク探検隊の最大で最高の成果物であって、広大な面積を覆い特に水運関連情報が精密な地図として作成されている。



(地図1)

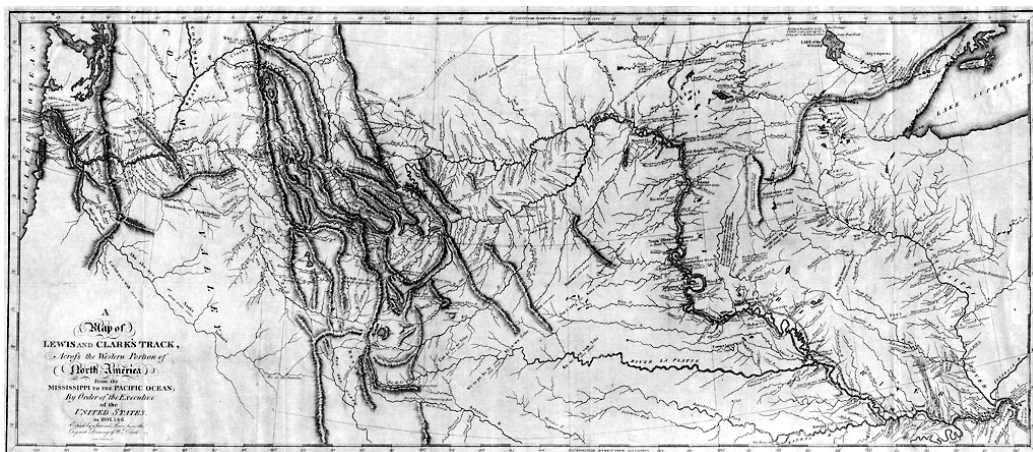
1778年作成のジョナサン・カーバーによる北西部地域の地図



(地図2)

1795年にアロン・アロースミスが作成した地図





(地図3)

1814年に刊行されたルイス・クラーク探検隊の成果地図

(地図2)は、トーマス・ジェファソンとルイス・クラークが探検構想を検討した際に用いた1795年にアロン・アロースミスが作成した地図であるが、1814年に刊行された(地図3)と比較すればルイス・クラーク探検隊の成果が一目瞭然である。

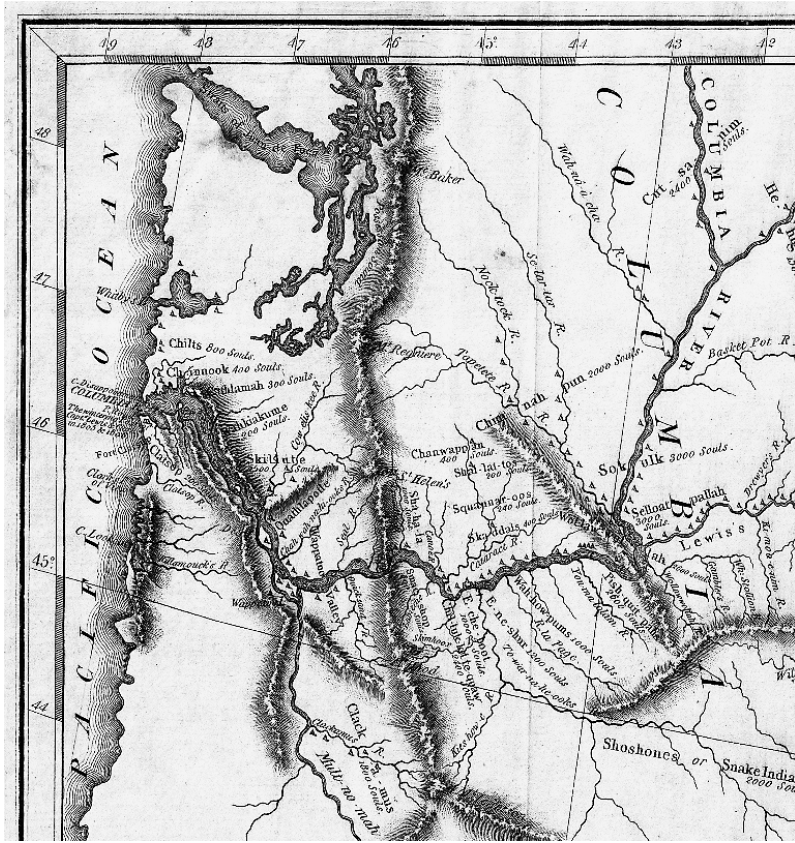
ルイス・クラーク探検隊の最大の使命は内陸水路の発見であったため、この(地図3)においても水運関連情報が精密な地図として作成されている。合衆国は主な河川と詳細な支流の書き込みがあり連なる山脈が記された地図の完成により、アメリカ西部の地理に関する広範囲に渡った知識を獲得した。

次の(地図4)は、(地図3)の北西部分を抜出した地図である。(地図3)中の現ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州に相当する部分の拡大であるが、さらに東部分を拡大した次の(地図5)を併せて観ると詳細な支流の記入が判り、ルイス・クラーク探検隊の現地踏査と地図作成が精密で詳細であることが解る。

この国軍の探検隊はアメリカ合衆国では探検隊が自称した「発見の部隊」Corps of Discovery(発見の使命を帯びて派遣された国軍の部隊)という別称で知られているが、自然史、動物、植物、地質、地理、先住民に関する民俗学的情報、など多くの発見を記録し、多数の標本を作製した。全178種に及ぶ植物と、122の動物の種・亜種を観察および描写した記録は貴重な生物学的資料である。

(植物については、資料「ルイス・クラーク探検隊によって初めて記録された植物名リスト」参照)

ルイス・クラーク探検隊の成果と影響は、政治外交においては先住民インディアンとの、またヨーロッパとの外交を開いたことが挙げられ、合衆国によるオレゴン準州領土の要求を強化することとなった。探検隊の壮挙は合衆国政府とまた各種のメディアが西部へ関心を寄せる大きな契機とな

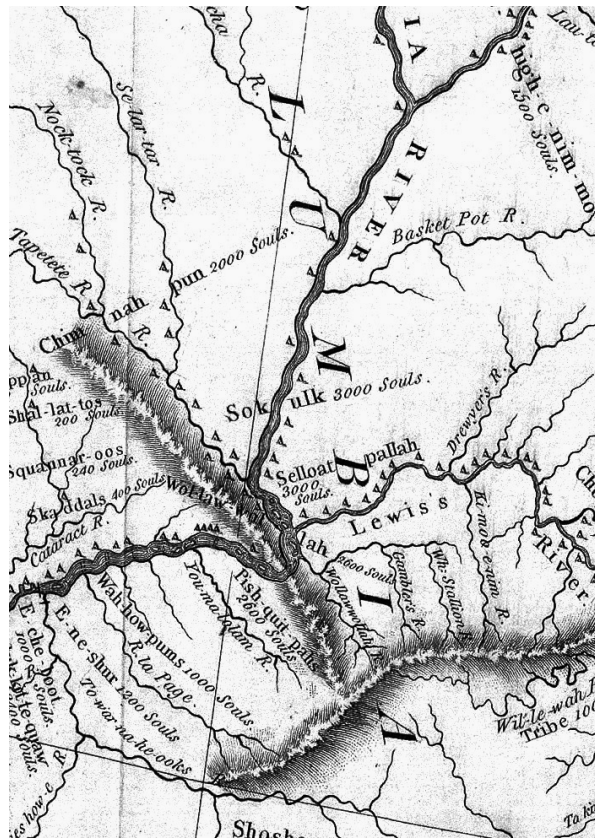


(地図4)

(地図3)の北西部分 拡大

り、後の西部開拓の嚆矢となった。探検隊による諸記録、特にルイスとクラークの日記は西部をテーマにするアメリカ文学の重要な要素となった。ルイス・クラーク探検隊は合衆国政府が派遣した国軍の探検隊であったが、同隊の成功は以後の国軍による西部探検・探査の前例を確立した。

組織論の観点からは、この探検隊は部隊構成として同格の隊長が二人いたという点で極めて稀な編成である。この国軍の探検隊が二人の隊長ルイスとクラークが率いた「双頭の探検隊」であったことは組織論上の際立った特徴である。約二年半の長い任務の中、二人のリーダーは対立することなく全く対等に振る舞い見事な協力と協調によって隊を率い踏査の任務を果たした。例えば、本隊の前進に先立って進路の予備的概要踏査すなわち斥候のために先遣隊が多数回出されたが、その先遣隊のリーダーは二人の隊長が交互に務めた。定められた規則はなかったが彼らは交互に先発の任に就き、一方が先に立ちもう一方が本隊を率いて後に続いた。ルイスはクラークよりも高い教育を受けていたが気まぐれで戦闘的だった。またクラークは紅毛でそれにふさわしく激しい気性の持ち



(地図5)

(地図4)の北西部分さらに東部分拡大 支流・支溪が詳細

主だった。後にジェファソンは回顧録の中でルイスに躁鬱の傾きがあったことを述べているが、探検隊の日記類を含め残されている資料にそのような形跡はない。二人の性格はかなり異なっているが、重大な決断を要する際には常に意見と判断が一致していた。

約50名の探検隊員の大半は二十代で独身の兵士たちであり熟練した軍人ではなく、行程中に嵐などの自然の異変や瀑布・激流と闘う航行が数多くあり、インディアンとの遭遇、さらにはルイス・クラーク探検隊の行動を探るスペイン部隊の接近などがあったが、全行程1万6千キロに及ぶ未踏の地を踏破した探検中、死亡隊員一名のみ(但し出発前から発症していた虫垂炎の悪化による死亡)、さらに先住民インディアンとの接触において戦闘状態になったのはただ一回のみであった事実はルイスとクラークの「双頭」の見事な協力とリーダーシップを示している。

1903年はルイス・クラーク探検隊百周年の年であったが、注目されることは無かった。

この探検隊が今日まで広く知られてこなかったのは、おそらく同探検隊のルートがその後の西部開拓のルートにはならなかったという事情によるものであろう。これはジェファソン等の期待と予



想に反した結果であった。探検隊のルートは今日知られている西部開拓のルートである三つのトレイル、即ちオレゴン・カルフォルニア・サンタフェのいずれのトレイルともならず、地理上最も近いオレゴン・トレイルも重複はしていない。後の西部へと向かう開拓者たちの大陸の西の端へと向かういわゆる「西漸運動」は、西部への領土拡張を正当化するために使用されたスローガン Manifest Destiny 遂行のルートとなったオレゴン・トレイルと、西部を目指す大多数の者が取ったカルフォルニア・トレイルを辿るものであった。さらに南のサンタフェ・トレイルを加えて三つのトレイルが西部開拓の基本ルートであったため西部開拓期以降ルイス・クラーク探検隊の往復路がアメリカ国民の記憶に留まることはなかった。これが国外はもとより合衆国国内でもルイス・クラーク探検隊のルートについては広く知られていない一因であるかもしれない。しかし、ルイス・クラーク探検隊は、西部への道筋を発見し西部を認識させた「陸のコロンブス」であったことは、歴史が証明している。(ジョージ・カトリン\*\*はルイス・クラーク探検隊の北上ルートを追体験している。)

両隊長の日誌記録 The Journals of Lewis and Clark 中、最も頻度の高い記述は「なお、進む」“We proceed on.”という短文である。この壮挙から84年後に、連邦政府によってフロンティアの消滅が宣言される。しかしアメリカ合衆国はフロンティアを求め続け「なお、進む」。20世紀の半ばを過ぎた頃、地上にフロンティアが完全に無くなり合衆国市民が未知への挑戦を続ける目標を失いかけた頃、若い大統領ジョン・F・ケネディはアメリカ航空宇宙局 NASA による他の天体への探検の構想を「新しいフロンティア」計画 New Frontier Administration として掲げ国民を鼓舞した。フロンティアを失うとき、アメリカ合衆国は衰退へ向かい始める。今後どれほど地理情報が豊かになっていったとしても、二世紀以前の地表の実情 ground truth としてのルイス・クラーク探検隊の踏査による記録と成果は、アメリカ合衆国の重要な自己認識の一部であり「譲ることのできない」国家と市民の資産であり続けるであろう。



(図5)

ルイス・クラーク探検隊記念10ドル紙幣(1901年発行)

## アメリカ合衆国市民を形成する「三つの源流」

2003年1月18日ジェファソン邸宅モンティチェロでルイス・クラーク探検隊200周年記念の式典が催された。21世紀に入ってからその式典は、アメリカ合衆国の歴史的偉業を記念する催事にありがちなヨーロッパ系アメリカ人の業績を称える傾向が抑制されていた。特別に招かれた三名のスピーチ・講演がその中心で、先住民の詩人により創作詩「わが祖国」が朗読され、黒人の作家によって「黒人ヨークと先住民サカジャウエアの貢献への献辞」が述べられた。基調講演は西部探検史の研究者で西部史学会会長のタルサ大学教授ジェームス・P・ロンダによってなされ、ルイス・クラーク探検隊が踏査した地域はるか以前から「先住民により既に発見され居住され続けてきた」土地であることが述べられた。これらの記念スピーチをした三人はそれぞれ白人（ヨーロッパ系アメリカ人）、先住民（アメリカ先住民、所謂インディアン）、黒人（アフリカ系アメリカ人）で、奇しくもアメリカ合衆国市民を形成する三つのグループを代表している。

アメリカ合衆国市民を形成するこの「三つの源流」がルイス・クラーク探検隊にはある。

三つとは、北アメリカ大陸の先住民、ヨーロッパから移住した白人、アフリカからの黒人であるが、それぞれ探検隊のルート途上で出会った先住民、特に隊に多大の貢献をしたショーショーニー族の少女サカジャウエア、隊員中の唯一の黒人で隊の越冬方針決定に投票参加したヨーク、そして白人である隊の主要構成員である二人の隊長と隊員達である。

今日では、これらの三つの源流に加えてヨーロッパ以外の地域からの移住、また近年はヒスパニックの急増、などが加わるが、ルイス・クラーク探検隊はこれらの新しい潮流を含んでアメリカ合衆国市民の三つの源流を象徴している。ジェファソンも二人の隊長も先住民の要請があって、あるいは許可を得て彼らの生活の場に踏み込んでいったのではない。またアフリカ系アメリカ人は、自ら望んでアメリカ大陸へ移ったのではない。この探検から後にアメリカ合衆国は時として世界各地からの移民を制限し場合によっては拒否することがあったが、アメリカ先住民やアフリカ系アメリカ人から見れば彼ら自身は被侵略者であり被害者である。

探検隊は1804年5月14日セントルイスの近くの基地を出発し、三隻の船に分乗して、ミズーリ川を遡上した。冬が近づく10月下旬にようやく先住民マンダン族の領土にある「マンダン砦」に到着した。探検隊はこの地点で越冬の準備に入った。そこでルイスとクラークは、カナダ人毛皮商人シャルボノーの妻である、当時16歳だった先住民の少女サカジャウエアに出会った。彼女の通訳の能力の高さを見抜いたルイスとクラークは、以降の途上での先住民各部族との外交のため、彼女を通訳ガイドとして夫シャルボノー諸共雇い入れた。サカジャウエアのルイス・クラーク探検隊のための働きは通訳に止まらず、彼女自身の部族を含め複数の先住民部族との交渉、馬の調達、野草が食用に適か不適かの判別、また隊が進路に迷った際に正しい方向を示すなど顕著な貢献があった。

ルイス・クラーク探検隊に同行したショーショーニー族のサカジャウェアは、ポウハタン族のボカホンタスと並んで合衆国の歴史に記憶されている優れた先住民女性の代表である。

ベン・ヨークは隊長クラークの黒人従者としてこの探検隊に参加したが、先住民との外交において活躍し、また火器の扱いに優れていたために銃などの保守と食糧調達のための狩猟に能力を発揮し貢献した。往路の行程をほぼ終えた頃、探検隊は二度目の冬を迎え、隊員達はコロンビア川の北側（現在のワシントン州の側）か南側（オレゴン州側）のどちらかで越冬野営するかを両隊長以下一人一票の投票によって決めた。結果として隊は川の南側（コロンビア川の太平洋への河口部左岸、現オレゴン州アストリア市域）に野営をすることで合致し、越冬宿舎としてフォート・クラットソップという野営地を造営した。この投票に黒人ヨークも招き入れられ一票を投じた。このささやかな出来事は顧みればアメリカ合衆国史上、黒人が民主主義的参画を果たした最初の事例である。ヨークはメキシコ以北のアメリカ大陸を横断した最初のアフリカ系アメリカ人であったのみならず、「投票」した最初の黒人となった。

### 終わりに一多くの民から成る一つの国民

「もしその出てきた所のことを考えていたなら、帰る機会があったであろう。

しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。」

（新約聖書へブル人への手紙 11：15, 16a）

「天のふるさと」を知る者は、地上には安息の場所がないことを知っている。寄留者であり続けるその一生は、目指す永遠の安息の場を遥か天上に見つめ続ける地上の道程である。ジェファソンは「天にあるふるさと」の前に地上において、父祖や彼ら自身が「出てきた所」ヨーロッパではない「新しいふるさと」を、新大陸に「移り住んで来た多様な人々」によってつくることを意欲していた。

ジェファソンは、1987年ユネスコ世界遺産に登録されたモンティチェロの邸宅に駐仏全権公使時代にヨーロッパで買い集めた書誌・資料を含め、当時としては極めて多数の書籍・文献・資料を擁していたが、その書斎の書架中にイスラム教の啓典アル・クルアーン（コーラン）を所有していた。この二巻から成るコーランは1764年にロンドンで出版されたもので、2007年にアメリカ合衆国初のムスリム下院議員となったキース・エリソン Keith Maurice Ellison（ミネソタ州選出・民主党）の宣誓式に、聖書に替えて用いられた。建国期の大統領がコーランを所蔵していたことはジェファソンの並外れた知的好奇心の強さと異なる価値観への卓越した理解の幅の広さを窺わせる。「多くの民から成る一つの国民」が多様性を失うとき、アメリカ合衆国は豊かさを失ってゆくであろう。

既に21世紀となった現在も、アメリカ市民の中に内陸部で生まれ育ちそこで一生を過ごす海岸

に行ったことすら無い「海を見たことが無い」人々がなお多数いる。国際化が標榜される今日も例外的な一部の国際派を除いては、アメリカ市民は国際化されてはいない。そのアメリカ市民は、自分たちは「アメリカ人」だと思い込んでいる。

未来の何時かアメリカ市民の大半が、「カナダ人もアメリカ人であり、メキシコ人もブラジル人もアメリカ人である」ことを明瞭に悟ることが出来るようになったとき、アメリカ合衆国と国民はようやく国際化し全球化 globalization を目指し始めることになる。改めて顧みればアメリカ合衆国が歩む全球化を目指すその長い道のりへの前哨が、ジェファソンが派遣したルイス・クラーク探検隊だったのである。

#### 参考文献・資料

\*\*ジョージ・カトリンに関しては

村上公久「国立公園の起源—国立公園の創設を導いた画家 G. Catlin」聖学院大学論叢 vol. 23 No. 1, 2010

#### ルイス・クラーク探検隊に関する書籍・紙誌

##### 書籍

明石紀雄, 2004 ルイス＝クラーク探検—アメリカ西部開拓の原初的物語, 世界思想社  
(注 このトーマス・ジェファソンの研究者による著書は、ルイス・クラーク探検隊の優れた紹介である。) デイヴィッド・ホロウェイ著, 池央耿訳 1977 ルイスとクラーク 北米大陸の横断, 草思社 (Holloway, David (1976), *Lewis and Clark and the Crossing of North America*, E P Dutton の翻訳)

Allen, John Logan (1975). *Passage Through the Garden: Lewis and Clark and the Image of the American Northwest*. Urbana: University of Illinois Press.

Ambrose, Stephen E.; Sam Abell (2002). *Lewis and Clark: Voyage of Discovery*. Roanoke, VA: National Geographic Society.

Ambrose, Stephen E. (1996). *Undaunted Courage: Meriwether Lewis, Thomas Jefferson, and the Opening of the American West*. New York: Simon & Schuster.

Bergon, Frank, ed. (1989). *The Journals of Lewis and Clark*. New York: Penguin Books.

Betts, Robert B. (2000). *In Search of York: The Slave Who Went to the Pacific With Lewis and Clark*. Boulder: University of Colorado Press.

Billington, Ray Allen; James Blaine Hedges (1949). *Westward Expansion: A History of the American Frontier*. New York: The Macmillan Company.

Botkin, Daniel B. (1995). *Our Natural History: The Lessons of Lewis and Clark*. Putnam.

Burroughs, Raymond D. (1995). *The Natural History of the Lewis and Clark Expedition*. Michigan State University Press.

Clarke, Charles G. (1970). *The Men of the Lewis and Clark Expedition: A Biographical Roster of the Fifty-one Members and a Composite Diary of Their Activities from all the Known Sources*. Glendale, California: A. H. Clark Co.

Coues, Elliot, ed. (1987). *The History of the Lewis and Clark Expedition*. New York: Dover ed., 1987; reprint of 1893 Francis P. Harper 4-vol. ed., 1893.

Cutright, Paul R. (1989). *Lewis and Clark: Pioneering Naturalists*. University of Nebraska Press.



- Cutright, Paul Russell (1976). *A History of the Lewis and Clark Journals*. Norman: University of Oklahoma Press.
- Dattilio, Daniel (1986). *Fort Clatsop: The Story Behind the Scenery*. KC Publications.
- Daugherty, James (1951). *Of Courage Undaunted*. The Viking Press.
- DeVoto, Bernard, ed. (1997). *The Journals of Lewis and Clark*. Boston: Houghton Mifflin Co.
- DeVoto, Bernard (1952). *The Course of Empire*. Boston: Houghton Mifflin Co.
- Dillon, Richard (1965). *Meriwether Lewis: A Biography*. New York: Coward-McCann.
- Duncan, Dayton (1997). *Lewis and Clark: An Illustrated History*. New York: Knopf.
- Duncan, Dayton (1988). *Out West: American Journey Along the Lewis and Clark Trail*. Penguin Books.
- Fanselow, Julie (1994). *The Traveler's Guide to the Lewis and Clark Trail*. Helena, MT: Falcon Press.
- Fanselow, Julie (2003). *Traveling the Lewis and Clark Trail*. Guilford, Connecticut: Globe Pequot Press.
- Ferris, Robert G., Roy E. Appleman, ed. (1975). *Lewis and Clark: Historic Places Associated With Their Transcontinental Exploration (1804-06)*. Washington, D.C.: United States Department of the Interior, National Park Service.
- Fifer, Barbara; Vicky Soderberg (2002). *Along the Trail with Lewis and Clark*. Helena, Montana: Farcountry Press.
- Furtwangler, Albert (1993). *Act of Discovery: Visions of America in the Lewis and Clark Journals*. Urbana: University of Illinois Press.
- Gass, Patrick (1997). *The Journals of Patrick Gass: Member of the Lewis and Clark Expedition*. Mountain Press.
- Gass, Patrick (1958). *A Journal of the Voyages and Travels of a Corps of Discovery Under the Command of Capt. Lewis and Capt. Clark*. Minneapolis: Ross and Haines.
- Hawke, David Freeman (1980). *The Tremendous Mountains: The Story of the Lewis and Clark Expedition*. Norton.
- Holloway, David (1976). *Lewis and Clark and the Crossing of North America*, E P Dutton
- Holt, Peter (1991). *The Big Muddy: Adventures Up the Missouri*. Hutchinson.
- Hunsaker, Joyce Badgley (2000). *Sacagaewa: Beyond the Shining Mountains With Lewis and Clark*. Boise: Tamarack Books.
- Jackson, Donald, ed. (1962). *Letters of the Lewis and Clark Expedition With Related Documents 1783-1854*. Urbana: University of Illinois Press.
- Jones, Landon Y., ed. (2000). *The Essential Lewis and Clark*. New York: Ecco Press.
- Lavender, David (1990). *The Way to the Western Sea: Lewis and Clark Across the Continent*. New York: Anchor Books.
- Mansfield, Leslie (2002). *The Lewis & Clark Cookbook: Historic Recipes from the Corps of Discovery & Jefferson's America*. Berkeley: Celestial Arts.
- Munoz, William; Dorothy Hinshaw Patent (2002). *Animals on the Trail with Lewis and Clark*. New York: Clarion Books.
- Moulton, Gary E., ed. (1983-2001). *The Journals of Lewis and Clark, Volumes 1-13*. Lincoln, NE: University of Nebraska Press.
- Patent, Dorothy Hinshaw (2003). *Plants on the Trail with Lewis and Clark*. New York: Clarion Books.
- Olmsted, Gerald (1986). *Fielding's Lewis and Clark Trail*. Fielding Travel Books.

- Rodger, Tod (2000). *Bicycle Guide to the Lewis & Clark Trail*. Harvard, MA : Deerfoot Publications.
- Russell, Steve F. (2007). *Lewis and Clark Across the Mountains : Mapping the Corps of Discovery in Idaho*. Boise, ID : Idaho State Historical Society Press.
- Schmidt, Thomas (2002). *National Geographic Guide to the Lewis & Clark Trail*. Washington, D.C. : National Geographic.
- Slaughter, Thomas P (2003). *Exploring Lewis and Clark : Reflections on Men and Wilderness*. New York : Alfred A. Knopf.
- Thomasma, Kenneth (1997). *The Truth About Sacajawea*. Grandview Pub. Co.
- Thwaites, Reuben Gold, ed. (2001). *The Original Journals of the Lewis and Clark Expedition : Atlas. 1904. Reprint.*, Scituate, MA : Digital Scanning.
- Tubbs, Stephanie Ambrose ; Clay Straus Jenkinson (2003.). *The Lewis and Clark Companion : An Encyclopedic Guide to the Voyage of Discovery*. New York : Henry Holt.
- Wheeler, Olin D. (1904). *The Trail of Lewis and Clark, 1804-1806*. New York.

紙誌

- Abrams, Rochonne (July 1980). "Meriwether Lewis : The Logistical Imagination". *Missouri Historical Society Bulletin* 36 : 228-240.
- Bishop, Beverly D. (Fall 1981). "'The Writingest Explorers' : Manuscripts of Lewis and Clark". *Gateway Heritage* 2 : 22-29.
- Bolas, Deborah W. (Fall 1981). "Books from an Expedition : A Publications History of the Lewis and Clark Journals". *Gateway Heritage* 2 : 30-35.
- Criswell, Elijah Harry (April 1940). "Lewis and Clark : Linguistic Pioneers". *The University of Missouri Studies* 15.
- Hallock, Thomas (Fall 1997). "Literary Recipes from the Lewis and Clark Journals : The Epic Design and Wilderness Tastes of Early National Nature Writing". *American Studies* 38 : 43-66.
- Jackson, Donald (October 1967). "Some advice for the next editor of Lewis and Clark". *Missouri Historical Society Bulletin* 24 : 52-62.
- Large, Arlen J. (February 1991). "Expedition Aftermath : The Jawbone Journals". *We Proceeded On* 16 : 12-23.
- Moulton, Gary E. (March 1999). "The Journals of Lewis and Clark : Almost Home". *Documentary Editing* 21 : 9-14.
- Moulton, Gary E. (Summer 1985). "The Missing Journals of Meriwether Lewis". *Montana : The Magazine of Western History* 35 : 28-39.
- Sattelmeyer, Robert (1976). "The Lewis and Clark Journals and the Appropriation of the West". *Lectures on Revolutionary America* (Columbia : University of Missouri).
- Teggart, Frederick John (1908). "Notes Supplementary to any edition of Lewis and Clark". *American Historical Association Annual Report* 1 : 183-195.
- Thwaites, Reuben Gold (1903). "The Story of Lewis and Clark's Journals". *American Historical Association Annual Report* 1 : 105-129.

分野\* 別 文献資料タイトル (探検隊 200 周年記念行事 時の公開資料より編)

\* (動植物, 言語, 地図製作, 交渉・外交, 探検準備・装備, 交易)

動物

- Brown, Joseph Epes. *Animals of the Soul*. Rockport, MA : Element Books, 1992.
- Cutright, Paul Russell. *Lewis and Clark, Pioneering Naturalists*. Urbana : University of Illinois Press,

1969.

- DeVoto, Bernard, ed. *The Journals of Lewis & Clark*. New York: Houghton Mifflin Company, 1953.
- Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark: Across the Divide*. Washington, D.C.: Smithsonian Books and Missouri Historical Society Press, 2003.
- Herbert, Janis. *Lewis and Clark for Kids*. Chicago: Chicago Review Press, 2000.
- Jackson, Donald. *Letters of the Lewis and Clark Expedition with Related Documents 1783-1854*. Urbana: University of Illinois Press, 1978.
- Patent, Dorothy Hinshaw. *Animals on the Trail with Lewis and Clark*. New York: Clarion Books, 2002.
- Rolston, III, Holmes. *Environmental Ethics*. Philadelphia: Temple University Press, 1988.
- Ronda, James P. *Finding the West: Explorations with Lewis and Clark*. Albuquerque: University of New Mexico Press, 2001.
- Standing Bear, Luther. *My Indian Boyhood*. Lincoln: University of Nebraska Press, 1998.

### 植物

- Caduto, Michael J., and Bruchac, Joseph. *Keepers of Life: Discovering Plants Through Native American Stories and Earth Activities for Children*. Golden, Colorado: Fulcrum Publishing, 1994.
- DeVoto, Bernard, ed. *The Journals of Lewis and Clark*. Boston: Houghton Mifflin Co., 1953.
- Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark: Across the Divide*. Washington, D.C.: Smithsonian Books and Missouri Historical Society Press, 2003.
- Hobbs, Christopher. *Handmade Medicines: Simple Recipes for Herbal Health*. Loveland, Colorado: Interweave Press, Inc., 1998.
- James, Caroline. *Nez Perce Women in Transition, 1877-1990*. Moscow, Idaho: University of Idaho Press, 1996.
- Medicine Crow, Joseph. *From the Heart of the Crow Country*. New York: Orion Books, 1992.
- Moulton, Gary E., ed. *The Journals of the Lewis and Clark Expedition*. 10 vols. Lincoln: University of Nebraska Press, 1999.
- Patent, Dorothy Hinshaw. *Plants on the Trail with Lewis and Clark*. New York: Houghton Mifflin Co., 2003.
- Ronda, James P. *Lewis and Clark among the Indians*. Lincoln: University of Nebraska Press, 1984. Reprint. Lincoln: University of Nebraska Press, 2002.
- Spamer, Earle E., and Richard M. McCourt. *The Lewis and Clark Herbarium*. Academy of Natural Sciences of Philadelphia (PH-LC): Digital imagery study set. Academy of Natural Sciences of Philadelphia, Special Publication 19. 2002.

### 言語

- Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark: Across the Divide*. Washington, D.C.: Smithsonian Books and Missouri Historical Society Press, 2003.

### 地図製作

- DeVoto, Bernard, ed. *The Journals of Lewis & Clark*. New York: Houghton Mifflin Company, 1953.
- Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark: Across the Divide*. Washington, D.C.: Smithsonian Books and Missouri Historical Society Press, 2003.
- Primm, James Neal. *Lion of the Valley: St. Louis, Missouri, 1764-1980*. 3 d ed. St. Louis: Missouri Historical Society Press, 1998.
- Ronda, James P. *Finding the West: Explorations with Lewis and Clark*. Albuquerque: University of

New Mexico Press, 2001.

Ronda, James P. *Lewis and Clark among the Indians*. Lincoln : University of Nebraska Press, 1984.  
Reprint. Lincoln : University of Nebraska Press, 2002.

Warhus, Mark. *Another America : Native American Maps and the History of Our Land*. New York :  
St. Martin's Press, 1997.

#### 交渉・外交

Ambrose, Stephen E. *Undaunted Courage : Meriwether Lewis, Thomas Jefferson, and the Opening of  
the American West*. New York : Simon & Schuster, 1997.

Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark : Across the Divide*. Washington, D.C. : Smithsonian Books and  
Missouri Historical Society Press, 2003.

Jackson, Donald. *Letters of the Lewis and Clark Expedition with Related Documents 1783-1854*.  
Urbana : University of Illinois Press, 1978.

Ronda, James P. *Lewis and Clark among the Indians*. Lincoln : University of Nebraska Press, 1984.  
Reprint. Lincoln : University of Nebraska Press, 2002.

Standing Bear, Luther. *My Indian Boyhood*. Lincoln : University of Nebraska Press, 1998.

#### 探検準備・装備

Adler, David A. *A Picture Book of Lewis and Clark*. New York : David A. Adler, Holiday House, 2003.

Ambrose, Stephen E. *Undaunted Courage : Meriwether Lewis, Thomas Jefferson, and the Opening of  
the American West*. New York : Simon & Schuster, 1997.

Blumberg, Rhoda. *The Incredible Journal of Lewis and Clark*. New York : Rhoda Blumberg, Lothrop,  
Lee and Shepard, 1987.

Cotter, John L., Michael Parrington, and Daniel G. Roberts. *The Buried Past : An Archaeological  
History of Philadelphia*. Philadelphia : University of Pennsylvania Press, 1992.

Cutright, Paul R. *Contributions of Philadelphia to Lewis and Clark History*. Philadelphia Chapter  
Lewis and Clark Trail Heritage Foundation, Inc, 2001.

DeVoto, Bernard, ed. *The Journals of Lewis and Clark*. New York : Houghton Mifflin Company, 1953.

Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark : Across the Divide*. Washington, D.C. : Smithsonian Books and  
Missouri Historical Society Press, 2003.

Jackson, Donald. *Letters of the Lewis and Clark Expedition with Related Documents 1783-1854*.  
Urbana : University of Illinois Press, 1978.

Kroll, Steven. *Explorers of the American West*. New York : Steven Kroll, Holiday House, 1994.

Ronda, James P. *Finding the West : Explorations with Lewis and Clark*. Albuquerque : University of  
New Mexico Press, 2001.

Ronda, James P. *Lewis and Clark among the Indians*. Lincoln : University of Nebraska Press, 1984.  
Reprint. Lincoln : University of Nebraska Press, 2002.

Weiley, Russell F., ed. *Philadelphia : A 300 Year History*. New York : W. W. Norton & Company,  
1982.

#### 交易

DeVoto, Bernard, ed. *The Journals of Lewis & Clark*. New York : Houghton Mifflin Company, 1953.

Gilman, Carolyn. *Lewis and Clark : Across the Divide*. Washington, D.C. : Smithsonian Books and  
Historical Society Press, 2003.

Ronda, James P. *Lewis and Clark among the Indians*. Lincoln : University of Nebraska Press, 1984.  
Reprint. Lincoln : University of Nebraska Press, 2002.

ルイス・クラーク探検隊によって初めて記録された植物名リスト	
俗名 common name	学名 scientific name
Alkali Cordgrass	<i>Spartina gracilis</i>
American Silverberry	<i>Elaeagnus commutata</i>
Antelope Bitterbrush	<i>Purshia tridentata</i>
Aromatic Aster	<i>Symphytotrichum oblongifolium</i>
Arrowleaf Balsamroot	<i>Balsamorhiza sagittata</i>
Bear Grass	<i>Xerophyllum tenax</i>
Bessey's Locoweed	<i>Oxytropis besseyi</i>
Big Sagebrush	<i>Artemisia tridentata</i>
Bigleaf Maple	<i>Acer macrophyllum</i>
Bitterroot	<i>Lewisia rediviva</i>
Black Cottonwood	<i>Populus balsamifera ssp. trichocarpa</i>
Black Hawthorn	<i>Crataegus douglasii</i>
Blue Elderberry	<i>Sambucus glauca</i>
Blue Flax	<i>Linum lewisii</i>
Blue Huckleberry	<i>Vaccinium membranaceum</i>
Broom Snakeweed	<i>Gutierrezia sarothrae</i>
Buckbrush	<i>Ceanothus sanguineus</i>
California False Hellebore	<i>Veratrum californicum</i>
California Hazelnut	<i>Corylus californica</i>
California Rhododendron	<i>Rhododendron macrophyllum</i>
Camas	<i>Camassia quamash</i>
Canyon Gooseberry	<i>Ribes menziesii</i>
Cascade Oregon-Grape	<i>Mahonia nervosa (Berberis nervosa)</i>
Cat's Ears	<i>Calochortus elegans</i>
Chocolate Lily	<i>Fritillaria affinis</i>
Cluster Rose	<i>Rosa pisocarpa</i>
Clustered Elkweed	<i>Frasera fastigiata</i>
Common Snowberry	<i>Symphoricarpos albus</i>
Cous	<i>Lomatium cous</i>
Curlycup Gumweed	<i>Grindelia squarrosa</i>
Deerhorn Clarkia	<i>Clarkia pulchella</i>

Desertparsley	<i>Lomatium triternatum</i>
Disc Mayweed	<i>Matricaria matricarioides</i>
Dwarf Mountain Fleabane	<i>Erigeron compositus</i>
Eaton's Aster	<i>Symphotrichum eatonii</i>
Edible Thistle	<i>Cirsium edule</i>
Engelmann's Spruce	<i>Picea engelmannii</i>
Evergreen Huckleberry	<i>Vaccinium ovatum</i>
False Buckthorn	<i>Frangula purshiana</i>
Fernleaf Desert-Parsley	<i>Lomatium dissectum var. multifidum</i>
Fernleaved Lousewort	<i>Pedicularis cystopteridifolia</i>
Four-Wing Saltbush	<i>Atriplex canescens</i>
Fragile Prickly-Pear	<i>Opuntia fragilis</i>
Gardner's Saltbush	<i>Atriplex gardneri</i>
Geyer's Onion	<i>Allium geeyeri</i>
Giant Rye Grass	<i>Elymus condensatus</i>
Glacier Lily	<i>Erythronium grandiflorum</i>
Golden Currant	<i>Ribes aureum</i>
Golden Yarrow	<i>Eriophyllum lanatum</i>
Grand Fir	<i>Abies grandis</i>
Gray Rabbitbrush	<i>Ericameria nauseosa</i>
Greasewood	<i>Sarcobatus vermiculatus</i>
Great Blanketflower	<i>Gaillardia aristata</i>
Green Rabbitbrush	<i>Chrysothamnus viscidiflorus</i>
Hair Grass	<i>Aira brevifolia</i>
Hollyleaf Oregon-Grape	<i>Mahonia aquifolium (Berberis aquifolium)</i>
Idaho Fescue	<i>Festuca idahoensis</i>
Indian Breadroot	<i>Pediomelum argophyllum</i>
Indian Tobacco	<i>Nicotiana quadrivalvis</i>
Jacob's Ladder	<i>Polemonium pulcherrimum</i>
Lacy Tansyaster	<i>Machaeranthera pinnatifida</i>
Large Monkey Flower	<i>Mimulus guttatus</i>
Large-Flower Tritelia	<i>Triteleia grandiflora</i>
Large-Flowered Clammyweed	<i>Polanisia trachysperma</i>

Large-Head Clover	<i>Trifolium macrocephalum</i>
Leafy or Dwarf Thistle	<i>Cirsium drummondii</i>
Lemon Scurfpea	<i>Psoraleidium lanceolatum</i>
Lewis Monkeyflower	<i>Mimulus lewisii</i>
Lewis's Mock Orange	<i>Philadelphus lewisii</i>
Lindley's Silverpuffs	<i>Uropappus lindleyi</i>
Linear-Leaved Phacelia	<i>Phacelia linearis</i>
Lodgepole Pine	<i>Pinus contorta</i>
Long-Leaved Mugwort	<i>Artemisia longifolia</i>
Long-Tailed Wild Ginger	<i>Asarum caudatum</i>
Lyall's Angelica	<i>Angelica lyallii</i>
Lyall's Nettle	<i>Urtica lyallii</i>
Maiden Blue-Eyed Mary	<i>Collinsia parviflora</i> var. <i>grandiflora</i>
Menzies' Larkspur	<i>Delphinium menziesii</i>
Missouri Milkvetch	<i>Astragalus missouriensis</i>
Mountain Balm	<i>Ceanothus velutinus</i>
Mountain Brome	<i>Bromus marginatus</i>
Mountain Death Camas	<i>Zigadenus elegans</i>
Mountain Hemlock	<i>Tsuga mertensiana</i>
Mountain Lady's Slipper	<i>Cypripedium montanum</i>
Narrow-Leaved Skullcap	<i>Scutellaria angustifolia</i>
Narrow-Petaled Stonecrop	<i>Sedum stenopetalum</i>
Narrowleaf Cottonwood	<i>Populus angustifolia</i>
Narrowleaf Mountain-Trumpet	<i>Collomia linearis</i>
Needle and Thread Grass	<i>Stipa comata</i>
Netleaf Hackberry	<i>Celtis reticulata</i>
Nootka Rose	<i>Rosa nutkana</i>
Nuttall's Toothwort	<i>Cardamine nuttallii</i>
Ocean Spray	<i>Holodiscus discolor</i>
Orange Honeysuckle	<i>Lonicera ciliosa</i>
Oregon Ash	<i>Fraxinus latifolia</i>
Oregon Boxleaf	<i>Paxistima myrsinites</i>
Oregon Crab Apple	<i>Pyrus fusca</i>

Oregon White Oak	<i>Quercus garryana</i>
Oregon Wood Sorrel	<i>Oxalis oregana</i>
Osage Orange Tree	<i>Maclura pomifera</i>
Owl's Clover	<i>Orthocarpus tenuifolius</i>
Pacific Blackberry	<i>Rubus vitifolius</i>
Pacific Dogwood	<i>Cornus nuttallii</i>
Pacific Madrone	<i>Arbutus menziesii</i>
Pacific Yew	<i>Taxus brevifolia</i>
Peach-Leaved Willow	<i>Salix amygdaloides</i>
Pestle Parsnip	<i>Lomatium nudicaule</i>
Ponderosa Pine	<i>Pinus ponderosa</i>
Prairie Apple	<i>Pediomelum esculentum</i>
Prairie Rose	<i>Rosa arkansana</i>
Prairie Smoke	<i>Geum triflorum</i>
Prickly-Pear Cactus	<i>Opuntia polyacantha</i>
Purple Coneflower	<i>Echinacea angustifolia</i>
Purple Wake-Robin	<i>Trillium petiolatum</i>
Red Alder	<i>Alnus rubra</i>
Red Columbine	<i>Aquilegia formosa</i>
Red-Flowering Currant	<i>Ribes sanguineum</i>
Rocky Mountain Bee Plant	<i>Cleome serrulata</i>
Rocky Mountain Maple	<i>Acer glabrum</i>
Salal	<i>Gaultheria shallon</i>
Salmonberry	<i>Rubus spectabilis</i>
Scarlet Globe Mallow	<i>Sphaeralcea coccinea</i>
Seashore Lupine	<i>Lupinus littoralis</i>
Showy Phlox	<i>Phlox speciosa</i>
Shrubby Beardtongue	<i>Penstemon fruticosus</i>
Silky Lupine	<i>Lupinus sericeus</i>
Silver Sage	<i>Artemisia cana</i>
Silvery Buffaloberry	<i>Shepherdia argentea</i>
Silvery Lupine	<i>Lupinus argenteus</i>
Sitka Alder	<i>Alnus sinuata</i>



Sitka Mountain Ash	<i>Sorbus scopulina</i>
Sitka Spruce	<i>Picea sitchensis</i>
Skyrocket	<i>Ipomopsis aggregata</i>
Slender Popcorn Flower	<i>Plagiobothrys tenellus</i>
Slender Willow	<i>Salix exigua</i>
Slimflower Scurfpea	<i>Psoraleidium tenuiflora</i>
Small-Head Clover	<i>Trifolium microcephalum</i>
Snow-on-the-Mountain	<i>Euphorbia marginata</i>
Spring Birch	<i>Betula fontinalis</i>
Squaw Bush	<i>Rhus trilobata</i>
Stemless Evening-Primrose	<i>Camissonia subacaulis</i>
Sticky Currant	<i>Ribes viscosissimum</i>
Straggly Gooseberry	<i>Ribes divaricatum</i>
Subalpine Fir	<i>Abies lasiocarpa</i>
Sugarbowls	<i>Clematis hirsutissima</i>
Tansy	<i>Tanacetum nuttallii</i>
Tarragon	<i>Artemisia dracunculus</i>
Thimbleberry	<i>Rubus parviflorus</i>
Three-Leaf Bitterroot	<i>Lewisia triphylla</i>
Tolmie's Onion	<i>Allium tolmiei</i>
Tufted Evening-Primrose	<i>Oenothera caespitosa</i>
Twinberry	<i>Lonicera involucrata</i>
Umatilla Gooseberry	<i>Ribes cognatum</i>
Varileaf Phacelia	<i>Phacelia heterophylla</i>
Vine Maple	<i>Acer circinatum</i>
Water Birch	<i>Betula occidentalis</i>
Western Blue-Flag	<i>Iris missouriensis</i>
Western Bracken	<i>Pteridium aquilinum pubescens</i>
Western Huckleberry	<i>Vaccinium occidentale</i>
Western Larch	<i>Larix occidentalis</i>
Western Mountain Kittenails	<i>Synthyris missurica</i>
Western Red Baneberry	<i>Actaea arguta</i>
Western Red Cedar	<i>Thuja plicata</i>

Western Serviceberry	<i>Amelanchier alnifolia</i>
Western Snakeweed	<i>Polygonum bistortoides</i>
Western Springbeauty	<i>Claytonia lanceolata</i>
Western Sweetroot	<i>Osmorhiza occidentalis</i>
Western Wake-Robin	<i>Trillium ovatum</i>
Western Wallflower	<i>Erysimum capitatum</i>
Western White Pine	<i>Pinus monticola</i>
White Alder	<i>Alnus rhombifolia</i>
White Milkwort	<i>Polygala alba</i>
White Squaw Currant	<i>Ribes cereum</i>
Whitebark Pine	<i>Pinus albicaulis</i>
Wilcox's Beardtongue	<i>Penstemon wilcoxii</i>
Wormwood	<i>Artemisia ludoviciana</i>
Yellow Bell	<i>Fritillaria pudica</i>
Yellow-Flowering Pea	<i>Lathyrus ochroleucus</i>

The background of the Lewis and Clark Expedition  
— “Corps of Discovery Expedition” which prompted the nation to territorial  
expansion —

Kimihisa MURAKAMI

Summary

---

The Lewis and Clark Expedition, known as “Corps of Discovery Expedition” was the first transcontinental expedition to the Pacific Coast by the United States. In 1803 Thomas Jefferson commissioned the expedition. Led by Meriwether Lewis and William Clark, the expedition had several assignments. They were both scientific and commercial to study the area’s plant and animal life, geology, geography, and to discover how the region could be developed economically. The major goal was to find the best inland navigation route, or “direct and practicable water communication across the continent, for the purposes of commerce with Asia” (the Northwest Passage). The goal was to get an accurate sense of the resources in the recently-completed Louisiana Purchase. In 1804, about 45 men headed by two Virginia-born veterans moved up the Missouri River, crossed the Rocky Mountains, and from the Columbia River, reached the Pacific Ocean by November 1805. They returned to St. Louis by September 1806 with great fanfare and important information on native people, plants and animals, and geography.

The main purpose of this paper is to elucidate the territorial vision conceived by President Thomas JeffersonThomas Jefferson which made the superpower today.

---

**Key words;** The Lewis and Clark Expedition, Thomas Jefferson, Louisiana Purchase, transcontinental expedition